

2

まちの将来像

当町は、少子高齢化、高度情報化、国際化の進展、行政課題の多様化、バブル経済の崩壊による長引く不況等の社会・経済情勢の変化といった課題に対応するため、平成13(2001)年に第3次総合計画(計画期間15年)を策定しました。

これにより、当町のもつ特性を活かしたまちづくりを進め、まとまりをもった地域社会としての性格や特性を最大限に活かし、快適で安全かつ利便性の高い都市空間を整備してきたほか、人々が互いに支え合い、愛着と誇りをもって、充実した質の高い暮らしと活動ができる魅力を備えた生活空間を創造し、あらゆる側面で「豊かな暮らし心地」が実感できる「オアシス都市」の実現を目指してきました。

第4次総合計画においても、引き続き、社会情勢の変化を踏まえながら将来を的確に展望し、自立した行政運営や地域の活性化に向けた取り組みを行うとともに、非核宣言自治体としての平和行政の推進や環境対策、人権が尊重されるまちづくりなどを進めていきます。

また、全国的な課題でもある人口減少、少子高齢化社会の進展においても、第3次総合計画に掲げた将来像「ひとがきらめき まちが輝く オアシス都市 あきふちゅう」を継承し、その実現に向けて、まちが賑わい活性化することで、誰もが住んでみたいと思う「魅力」があるまち、いつまでも安心して住み心地のよい「愛着」が持てるまち、府中町に暮らすことに「誇り」が持て自慢できる暮らしやすいまちを目指します。

将来像

ひとがきらめき まちが輝く
オアシス都市 あきふちゅう

第4次総合計画においては、次の視点から暮らしやすいまちづくりを目指し、将来像を設定します。

【第4次総合計画で目指す暮らしやすいまちづくりの視点】

- 住んでよかった、住んでみたいまちとして、府中町で暮らすことに誇りが持てる『オアシス都市』を目指す。
- 安心して子どもを産み、育てていく環境が充実したまちとして、このまちに住んでみたい、住み続けたい『オアシス都市』を目指す。
- コンパクトなまちで自然と住宅地が近接しており、生活の利便とともに水と緑に恵まれた静かで安らぎのある『オアシス都市』を感じられるまちを目指す。